

2008北海道” たのしい授業” 講座での分子模型作り

2008. 2. 20 小樽分子模型の会 斎藤一郎

ichirokasetu@yahoo.co.jp <http://www17.plala.or.jp/ichirokasetu/>

2008年1月9日～11日にガトーキングダムサッポロで「2008北海道” たのしい授業” 講座」が行われました。ボクはいつものように「いつでもものづくり」と「おたのしみ講座」で分子模型作りを担当しました。その様子をお知らせします。

《もしも原子が見えたなら》の入門講座を担当しました

1日目の1コマ目に《もしも原子が見えたなら》の入門講座を道端さん（古平高）と担当しました。最初に授業書の体験を道端さんに担当してもらい、後半に授業書のコツや用意すると良いと思われる道具などの説明をボクが担当しました。参加者が4人と少なく、実験も分子模型作りもない講座でしたから、動きが少なく、参加者に楽しんでもらえたか不安でしたが、終わってから書いてもらった感想には、「とてもたのしかった」とあり、書いてもらわないとわからないなと改めて思いました。

1日目のお楽しみ講座は空気の分子模型作りの予定でしたが…



夕食後、お楽しみ講座になり、何人か、分子模型作りをたのしんでくれました。《もしも原子が見えたなら》の参加者が少なかったもので、空気の分子模型作りには来ないかなーと思いましたが、それでも数人の方が作ってくれました。

また、この日は氷の分子模型を作りたいと言ってくれた人がいて、夜中までにはなんとか完成できることをつげ、作成を始めてもらいました。

72個の氷は5時間くらいかかる大物です。でも一度作ると一生使えるし、達成感のある大人の分子模型作りだと思います。単調な作業の繰り返しなので、小学生だと途中で投げ出してしまう子がほとんどです。





ずっと座っていると疲れる作業なので、途中で休憩したり、他のお楽しみ講座に出かけたりとメンバーがどんどん替わる中、分子模型作りは進んでいきました。

朝里中にいた頃の教え子さんものぞきに来てくれて、懐かしいやら、恥ずかしいやらで、ちょっと複雑でしたが、たのしく過ごすことができました。

2日目のお楽しみ講座用に用意していたドライアイスの分子模型作りをやりたいて言ってくれる人が多かったです。資料にある紙の組み立て台を作る人は少なく、ボクが持っている木製の組み立て台や、見本の紙の組み立て台を利用してドライアイスの分子模型を作ってくれました。



1日目の最後はドライアイスの組み立てです。たくさんの方がドライアイスを作ってくれたので、組み立て台が間に合わず、順番待ちの状態が続きました。

12時には全体会場のミュスカデを閉めなければならないので、とりあえず終了です。

2日目は強力な助っ人が来ました

2日目は強力な助っ人を依頼しておきました。長女の恵理菜です。彼女は幼稚園の頃から発泡スチロール球で分子模型を作っていましたから、かなり早いスピードで、どんどん作ってくれるのです。

今回は氷の分子模型の部品をたくさん作ってもらい、参加者の手伝いをしてもらいました。





今回も球はたくさん用意しました。1月4日～6日まで埼玉で行われていた仮説実験授業の冬の全国大会でも分子模型作りをしたので、多めに塗っておきました。安心して分子模型を作ってもらえることができました。



3日目も作り続けました

右側の女性はもうすぐ赤ちゃんが生まれるそうです。大きなお腹をなでながら、72個の大きな氷の分子模型を作っていました。分子模型作りってすごいなと思いました。

3日目はお昼で終了です。3日間、たくさんの方々いろいろな分子模型を作ってもらいました。夏には道東の中標津で仮説実験授業の入門講座があります。そこでもたくさんの方々分子模型を作ってもらおうと思ってます。



この日も12時まで分子模型作りを楽しんでもらいました。長女の恵理菜はかなり疲れていますね。たくさん手伝ってくれて助かりました。次の日は昼過ぎまで寝ていたらしいです。感謝です。

